

<http://semboku-h.ed.jp/blog/1789>

SSH 広報委員 (2年生) 岡本龍太郎、幸野雄大、原田直、平野元揮、前田祥、前田凌
(1年生) 橘侑輝、大谷美咲、下前仁志、中井咲希
(特別寄稿) 青木勝 (3年)、林美咲 (3年)、東尾乃絵 (2年)

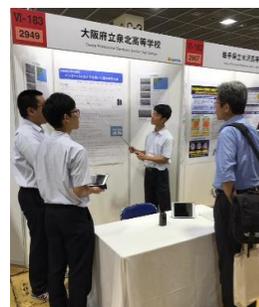
■SSH全国発表会でポスター発表(8/9・10)

8月9日(水)、10日(木)の2日間、神戸国際展示場(神戸ポートアイランド)を会場に平成29年度生徒研究発表会(文部科学省主催)が開催され、初日に全国のSSH指定校・経験校200校余りと外国からの招待発表校約20校がポスター発表を行い、翌日はその中から選ばれた6校が口頭発表を行いました。本校からは、今年は総合科学科3年・課題研究・地学2班が校内選考で選ばれ、「インターバルカメラを用いた雲の研究方法」についてポスター発表に臨みました。2日間、自分たちのポスター発表(たくさんの大学の先生方や他校の生徒向けの発表・質疑応答)と他校のポスター発表見学、選ばれた口頭発表・基調講演(理研・高橋政代さん)を聞くなど、充実したプログラムを経験しました。



●SSH全国発表会に参加して

僕たち課題研究 地学2班は、8月9日・10日に神戸で開催されたSSH全国「生徒研究発表会」に出場しました。研究結果をポスターにまとめて神戸国際展示場の大きなホールで発表しました。2日間で7時間半と長時間の発表で、たくさんの審査員の先生方や、各高校の先生方・生徒のみなさんに説明したのですが、全員疲れ果てました。参加した約200校から選ばれた6校が口頭発表しました。難しい内容のものもありましたが、とても興味深くおもしろい研究発表でした。僕たちも何度も試行錯誤して、発表に向けて準備をしましたが、結果的には受賞には至りませんでした。しかし、課題研究をしたことや全国発表会で発表したことは、何物にも代えがたいもので、この経験をこれからも大切にしていきたいと思っています(青木勝)。



■日本動物学会の高校生ポスター発表で「優秀賞」

課題研究生物2班(小田一紗・長谷川幹奈・林実咲・増永日菜乃の3年生4名)が、平成29年9月23日(土)に、富山県民会館で行われた「日本動物学会の高校生ポスター発表」に参加し、終了後の表彰式で「優秀賞」の賞状と盾をいただきました。この発表会は非常



■SSH海外研修旅行について

本校ではこれまで、ハワイ島やオーストラリア・台湾・ボルネオなどへSSH海外研修に行ってきました。今年夏には3回目となるボルネオ研修を、生徒8名と教員3名の参加で、SGHとの合同研修として実施しました。

●SSH・SGH合同ボルネオ海外研修に参加して

私たちは8月14～20日にマレーシアに行ってきました。文化や環境について学んだり、現地の人々と交流したりしました。最初に訪れた Setiawangsa 校では、泉北高校の紹介や、環境問題について英語で発表をしました。環境問題の発表では、野菜の皮などを使った料理をマレーシアの学生に紹介しました。



3日目は、ロッカウィ動物園に行きました。罨にかかって鼻が短くなったゾウや、絶滅危惧種のオランウータンなど、たくさんの動物がいました。私たちの生活を便利にするために、多くの動物が犠牲になっているのだと知りました。

モンゴルバル村のホームステイでは、吹き矢や、ゴムの木の樹液を採取したり、日本では体験できないような貴重な体験をすることができました。JICA の方のお話も聞いて、日本から遠く離れたところで日本人が活躍していることを知り、とても誇りに思いました。



5日目は、サバ大学で環境問題についての講義を受けたり、昆虫を採集して標本をつくったりしました。先生をつくるバッタの標本は、足の角度や広げ方も調節されており、今にもジャンプしそうです。夜は、リバークルーズで野生生物を観察しました。現地のホテルは、日本でよく見かけるゲンジボタルなどにくらべ小形で、光も小さかったです。木にたくさんのホテルが停まって光っていたので、イルミネーションのようでした。



最終日は、ピナンパン村に行き、川をきれいにする活動をしている NPO の方々のお話を聞きました。川を大切に思ってもらうためにイベントを開いたり、環境に優しい肥料の作り方を広めたりしておられました。実際に肥料のつくる過程や、川の状態を見せてもらいました。川にはゴミがたくさん浮いていて、とても濁っていました。



今回の研修で、自然にふれ、自然を守ろうとする方々のお話を聞き、自然の大切さを改めて感じました。私たちにできることは、ゴミの分別や環境に配慮した製品を買うことなど、小さいことかもしれませんが、少しずつ積み重ねてすることが必要だと思いました。(東尾乃絵)

■東京～筑波サイエンスツアーを実施

国内の自然科学系の施設を訪問するサイエンスツアーを、毎年2～3回実施しています。今年は、第1回サイエンスツアーを、生徒29名と教員2名の参加で、7月30日(金)～31日(土)の1泊2日の日程で実施しました。第2回サイエンスツアーは1月に予定しています。

1日目は東京のお台場にある日本未来科学館に行きました。最先端の科学・技術に関する最新の博物館で、科学知識が身近な生活にどのように生かされ、私たちの生活に役立っているかがよくわかる博物館でした。前半は事前学習の時に、興味を持ったテーマが同じメンバーで班を作り、それぞれの班で見学して、宿舎で報告会を開催しました(右写真)。後半は自由見学をしました。この日は本郷三丁目の機山館で宿泊し、近くの東京大学を見学したり、自由に夕食を食べました。



2日目の午前中はJAXA・筑波宇宙センターを見学しました。日本の宇宙開発の中核センターで、人工衛星やロケットなどの実物大模型も展示されており、今回は昨年工事で見学できなかった「きぼう運用管制室」の見学もできました。午後は、食と農の科学館に移動して、日本の農林水産業の持続的な発展を支えている研究成果を見学しました。その後、気候変動や有害化学物質の農業への影響や生物多様性保全などに関する研究を進めている農業環境変動研究センターへ移動して、芝池博幸氏(生物多様性領域主任研究員)に外来生物に関する最新の研究を紹介していただきました。



●第1回サイエンスツアーに参加して

今回のサイエンスツアーは、昨年と同じ日本未来科学館、JAXA筑波宇宙センターに加えて、食と農の科学館や農業環境変動センターに行きました。日本未来科学館では、アンモやオトナロイドの展示などを行っており、日本最先端の技術を知ることができました。JAXA・筑波宇宙センターでは、普通は入れない宇宙飛行士養成エリア内の「きぼう運用管制室」の見学もして、日本の最先端の宇宙研究について知ることができました。食と農の科学館では普段自分達が食べているものがどうやって自分たちのところまで来ているか詳しく知ることができました。また、農業環境変動センターでは研究員の芝池先生からヒアリの話など外来生物が日本の自然にどんな影響を与え、国ではそれに対してどのような取組をしているかについて講演をしていただきました。僕たちは今回の活動で学んだことをこれからに活かしたいと思います。(橘)



ご意見、お問い合わせは以下にお願いします。木村(S S H通信担当)・佐保田(教頭)
Tel 072-297-1065、Fax 072-293-2376、e-mail ssh@semboku.osaka-c.ed.jp